

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100434		
法人名	社会福祉法人 友愛会		
事業所名	グループホーム阿東園		
所在地	山口県 山口市 阿東地福下286番地1		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	令和3年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来10年以上のグループホームです。理念である「ゆつくり、楽しく、和やかに」利用者の方が自分らしく生き生きと暮らしていけるように支援しています。
身体的にグループホームでの支援が困難になった場合、同じ敷地内にある特別養護老人ホームに転居も可能(要介護3以上の方)。最後まで住み慣れた地域でこの地域の方と過ごされています。馴染みの関係も続きやすい環境にあります。大したことはできませんが、一人ひとりを大切に日々の支援に努めていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、地元の人の協力を得られてしめ縄づくりと一緒にされたり、毎月生け花の先生が来訪され、今まで通り生け花を続けることができたり、青少年自然の家から2名来訪されて、鶴のクラフトづくりの指導を受けておられる他、クリスマス会には地元の園児が来訪して、ハンドベル演奏の披露をされているなど、事業所の中でも入居前の日常と同じように、毎日楽しく充実した日々を過ごしておられます。コロナ感染予防のため、家族との直接の面会が叶わない中、窓越しに顔を見ることやドライブでのふるさとめぐりなどで、馴染みの関係が途切れないように工夫しておられます。昼食づくり(ホットプレートでの焼肉、焼きそば)で気分転換を図られたり、仮想外出をしながら季節の味(桜型の寿司を詰めた松花堂弁当、暑気払いの鰻の蒲焼き、育てて収穫した西瓜、お取り寄せ銘菓、鮎の塩焼きなど)を楽しまれている他、季節を感じることできる秋桜の壁絵づくりをして飾っておられるなど工夫をされて、利用者の笑顔と語らいが絶えない利用者本位の支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆつくり・楽しく・和やかに、住み慣れた地域で安心安全な生活が出来るように支援します」という理念に基づき誰でも見える位置に掲示している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を事業所内に掲示し日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事はコロナ感染症予防のため中止になり参加できていないが広報、生活状況を運営推進委員会、家族に報告している。	毎月、ボランティア(歌、生け花)の来訪があり、交流している。長門峡の紅葉祭りに利用者6名参加し、地元の人と交流している。クリスマス会に地元の園児が来訪し、ハンドベル演奏の披露がある。青少年自然の家から2名来訪があり、つるクラフトづくりの指導を受けている。地元の人の協力で、しめ縄づくりを一緒に行っている。支援学校実習生の現場実習を受け入れている。馴染みの人や家族から季節の野菜や花の差し入れがある。コロナ感染症予防の中、地域とのつきあいを継続するために事業所からの情報発信に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	必要に応じて入所希望者支援方法等を行っている、合わせて婦人会等地域の方にも相談機関として伝えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が職員に評価の意義について説明し、自己評価表を前もって全職員に配布、まとめ。日々の関わりに活かし。事故防止や事故発生時の備えについて話し合い振り返りを行なっている。	管理者は、評価の意義について職員に説明し、全職員に書類を配布し職員が記入したものを管理者がまとめている。職員は自己評価を日々のケアのふり返しとして捉え、話し合って支援方法等を共有している。前回の外部評価結果を受けて、消防署の協力を得て救急訓練を実施、年3回の救急自主訓練を全職員で取り組んでいるなど、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年3月よりコロナ感染予防のため2か月に1回、地域より3名、市又は地域包括職員(1名)、家族代表(1名)、利用者(2名)の方々に行事、活動報告・行事予定・利用者の状況報告・ヒヤリハット等を報告し、意見等求めて改善点をサービスの向上に活かしている。	会議は2か月に1回開催し、利用状況、活動状況、行事紹介、事故・ヒヤリハット、災害時の対応や研修報告等を議題として取り上げて説明し、意見交換を行なっている。メンバーから安全面を確保する点から、木製のスロープは危険ではないかと提案を受け、法人内で検討し、ウッドデッキと併せコンクリート製に来年度変更する計画しているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。文書での会議開催に際しては、リモートの活用や事業所から電話をしてはどうかなどの意見があり、できることからサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話、FAX等、都度必要により助言や意見をもらい、情報交換する。	市担当者とは運営推進会議時の他、電話やFAXで相談し、情報提供を受けているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは事業所の利用者状況や事例について報告し、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修(年2回)及び、年4回内部研修で身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束をしない、安心安全な暮らしの支援に取り組んでいる。気づき等があった場合は、管理者、又は、職員同士で注意し合い、毎月の職員連絡帳で周知している。玄関は施錠せず、外出行動の際は、思いに傾聴し、一緒に外に出て安心されるよう支援している。	身体拘束適正化委員会を年5回開催している。年2回の法人研修や年4回の内部研修で身体拘束について学び、職員は理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しないで外に出たい利用者には気持ち声を聞いて、職員と一緒に散歩に出かける等の寄りそう支援をしている。スピーチロックについては、管理者が注意している他、職員間でも話し合い、毎月の職員会議や連絡帳で共有している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修(年2回)及びGHにおいても年4回研修資料を配布、全ての職員が虐待防止について学び正しく理解しており、虐待のないケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで、制度利用者はなく職員の理解が乏しい外部の方を招き学ぶ機会を設けることが難しいため(コロナ感染予防のため)。資料を配布し必要に応じて活用できるよう支援していく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、家族と一緒に読み合わせを行い、確認しながら、不安や疑問点についてしっかりと説明し、理解・納得を得るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書において、苦情受付担当者・苦情受付責任者・第三者委員・公的機関を明記し、苦情受付、処理手続きを定め、契約時に家族に説明し、施設内に掲示して周知している。面会時や電話等で直接、又、月1回、家族から意見・要望を頂けるよう文書を送付し、運営に反映させている。	契約時に、相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて、重要事項説明書に基づき家族に説明をしている。家族の面会時、運営推進会議参加時、電話の他、利用者の1ヶ月間の生活状況や行事を文書で報告し、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。電話等で聞いた家族の思いなどは連絡帳で共有し、職員会議で再確認してケアに反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務においても意見や提案を出し合い、随時、運営に反映している。	月1回の職員会議や日常の業務の中で職員の意見や提案を聞いている他、法人で年2回個人面談があり、職員の意見を聞く機会を設けている。必要なことは連絡帳を活用して職員間で共有している。運営に反映させるまでの意見や提案はない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の適正な給与水準、労働時間の確保に努め、やりがいを持って働けるよう労働条件や職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部研修はコロナ感染予防のため参加を控 え、自施設内研修は資料を配布しスキル向 上情報の共有を図っている。法人内では年 2回全職員の研修に取り組み、スキル向上 にも努めている。又、管理者は資料を掲示し たり、個別に配布したり、働きながら知識を得 る機会も提供している。	外部研修は、研修情報を職員に伝え、勤務 の一環として研修機会を提供している。4回 (防府・山口ブロック別研修会、VR認知症体 験教室、救急救命講習会、グループホームの 災害対策)参加している。受講後は職員会議 で復命報告し、共有している。法人研修(デイ サービスと合同)は、第1回(感染症予防、褥 瘡予防、事故防止、虐待、身体拘束等適正 化に関する研修)を2回に分けて実施し、第2 回(第1回の研修からの取り組みと振り返りを グループワークで実施)を2回に分けて実施し ている。職員は復命して共有し、スキルアップ に努めている。内部研修は、スピーチロックに ついて、救急自主訓練(心肺蘇生法、AED使 用方法等)、蜂やムカデに刺された時の救急 処置法の確認、コロナ感染症予防、熱中症等 を実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	地域事業所との連携体制は出来ている。情 報交換等を通じて質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で情報収集し、本人が困っている こと不安に思っていることへの理解に努め、 安心して生活できるよう努めている。本人の 思いに寄り添ったサービスが提供できるよう にも努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	何でも話しやすい雰囲気をつくり、本人や家 族が不安に思っている事、要望等に耳を傾 け関係を築けるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや家族との話し合いの中から、 本人と家族が何を一番望んでいるかを見極 め、他のサービスも同様に支援するよう努め ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に食事の盛り付け、洗濯物干し洗濯物畳み、掃除、畑仕事、野菜の収穫等を行い、協力し支え合いながら、ひとつの大きな家で共同生活をしてるという認識で接している		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回生活状況を送付し、特に変わりごとのある時は、随時、電話連絡をし、共に本人の暮らしを支えていく関係を築いている。今はコロナ感染予防のため面会できないため写真も家族に送付している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさとドライブ等通じて関係継続に努めている。ただし4月以降は実施していない	家族の面会や親戚、知人の来訪がある他、電話での交流を支援している。コロナ感染予防時においては、窓越しに顔を見ることや、ドライブ(ふるさとめぐり)などで、馴染みの関係が途切れないように工夫している。2か月に1回、グループホーム阿東園だより送付したり、希望者には写真を送付している他、家族の協力得ての馴染みの美容院の利用など、これまでに大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、出来ないことは手伝ったり、優しい声を掛け合い支え合っている。職員は情報を共有し、利用者同士の関係性に留意しながら、共に支え合い、穏やかな生活が送れるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に努めている。これまでの関係性が継続するよう心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にしながら、思いや意向を聞いている。確認困難な場合も多いが、日々の関わりの中での利用者の言動や家族よりの情報から推察している。毎月のカンファレンスで本人本位に検討している。	入居時のフェスシート(家族からの情報や暮らしぶり)やケアマネジャーからの情報を活用している他、日々の関わりの中での利用者の体調、思い、言動を生活記録に記録し、気になる事柄や特記事項があれば、その都度連絡帳で共有して、思いや意向の把握に努めている。利用者の状況がワンペーパーで把握できるように記載の工夫をしている。困難な場合は毎月のカンファレンスで本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや本人、家族、知人の方よりの生活歴等の把握し入所までの担当CMや事業所からの情報収集を行い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL 疾患 日常生活行為力 認知力 好きな事 嫌いな事、などの把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的6ヵ月に1回カンファレンスを行い本人、家族の意向を確認しケアプランの見直しを行っている。但し、状態に変化がある場合には、都度見直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。日々の記録がケアプランに即して記入されるよう個別の生活記録にケアプランをセットしている。	計画作成担当者を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人と家族の意向や要望、主治医等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。モニタリングを月1回実施し、6ヵ月毎に見直している。利用者の状態の変化や要望に応じて見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録にケアプランの実践状況を記入、評価して、職員間で情報を共有を行いケアプランの見直しに活かしている。併せて、職員間で情報共有する方法として、連絡帳も用いている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の、その時々に応じて必要と思われるサービス提供を出来る限り柔軟に行っている。併せて、現状で提供しているサービスの見直しも柔軟に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所者の地域資源の把握は行っていたが、4月以降コロナウイルス感染予防のため実施していない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回かかりつけ医と精神科の往診をうけ、必要に応じて 通院、受診の介助を行い、家族と情報を共有しながら適切な医療が受けられるように支援している。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の訪問診療と精神科医の訪問診療がある。受診結果は連絡帳で職員は共有している。家族には電話で結果等を伝えている。夜間や緊急時には協力医療機関と連携し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化がみられるときは、かかりつけ医に随時電話やFAXで連絡をとり、細かな情報や気づきを伝え、適切な受診を受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の心身、体調面の様子を医療機関に情報提供している。入院中は、電話や面会を行い、病院関係者と情報交換し、早期に退院できるように努めている。併せて、日頃よりかかりつけ医へ何でも相談できる関係がある。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方と話し合いながらグループホームで可能な範囲で重度化した利用者へのケアに努めている。終末期へのケアは現状としては実施していない。	契約時に重度化した場合に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医と話し合い、医療機関や他施設への移設等も含めて方針を決め、共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人内での研修はもとより、事業所内でもマニュアルを作成し、緊急時の対応に努めている。事故・ヒヤリハット記録を取り、原因・今後の対策、注意点について話し合い、事故防止に繋げている。年1回救急訓練、年3回救急自主訓練を行う他、実践力を身につける為に職員会議の場において心肺蘇生法、応急手当について学んでいる。	事例が発生した場合は、その日の職員で発生時の対応や今後の対応について話し合い、記録後回覧し共有している。月1回の職員会議で原因、今後の対策、注意点等を話し合い、予防策を検討して利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事業所でマニュアルを作成し、職員会議時、緊急時の対応に備えて心肺蘇生法、応急手当について学んでいる他、外部研修でも学んでいる。年1回AED、救命蘇生訓練、年3回救急自主訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム単独の防災訓練に加え法人全体への訓練も行い、災害発生時に対応できるようにしている。災害発生時には地域の方への協力をお願いしている。	年1回、法人で消防署の協力を得て、夜間を想定した消火、通報、避難訓練を利用者も参加して実施している。事業所での自主訓練は今年は職員各自が書面で実施している。法人の宿直者や夜勤者との連携の確立や法人全体の職員に一斉通報連絡体制による招集の確立の他、災害時に周辺の自営業者(ガソリンスタンド、文具店、墓石屋等10名)との協力体制ができている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修で人格の尊重とプライバシーの確保について十分理解している。職員は月1回、自己チェックシートで自己評価し、利用者一人ひとりの、プライバシーや人格を損ねない対応に取り組んでいる。気になる対応については、都度、管理者、又は、職員同士で注意し合い連絡帳で周知している。	法人の研修で学び、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について十分理解している。月1回、自己チェックシートで自己評価し、利用者ひとり一人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。不適切な対応があれば管理者と職員間で話し合い、連絡帳で確認している。個人情報の取り扱いに留意するとともに守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表すことができるよう支援し、十分に意向を聞きながら、自己決定により物事が進めていけるよう働きかけや関わりを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースの生活を最優先し、心身の状況に配慮しながら、その人らしい生活が送れるよう柔軟に支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者の希望に応じて支援に努めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日三食を事業所内で手作りしている。利用者は、盛り付け等、出来る事を職員と一緒にやっている。食後は台拭き、コップ洗い、お盆拭きを手伝っている。中庭の畑で収穫した野菜や、旬の食材を用い、彩に配慮し、食事が楽しみなものとなるように工夫している。又、家族と帰宅の際に外食を楽しんでいる。	収穫した野菜や差し入れの野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、食材を切る、盛り付け、コップを洗う、お盆拭き、テーブル拭き等、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(鯛焼き、おにぎり、ホットケーキ)、昼食づくり(ホットプレートでの焼肉、焼きそば)、季節の味を食する(桜型の寿司を詰めた松花堂弁当、暑気払いの鰻の蒲焼き、育てて収穫した西瓜、お取り寄せ銘菓、鮎の塩焼き)など、食事を楽しむことができるよう支援している	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量チェックを行い、水分が確保できるよう食事、水分の内容や形態を工夫し、ムセ、飲み込みが悪い場合には、とろみをつけるなど、一人ひとりの状態に応じた対応を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、毎日のポリデント使用し、見守りや介助で、口腔内の清潔保持に努めている。定期的に、義歯・歯ブラシ・歯磨きコップの消毒を行い不衛生にならないよう気を付けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、性格やプライドに配慮した声掛けを行い、失敗を少なくするよう、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。	排泄チェック表活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しての言葉かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、10時に牛乳、ご飯に寒天、食事に繊維質のもの(きのこ・野菜)を多く取り入れている。又、日々の生活の中で体を動かしたり、排便の有無に関わらずトイレ誘導を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行事日等を除き、毎日、14時から16時まで入浴できる。週に3日入浴ができるように支援している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴や清拭等の支援を行っている。又、安心、安全に配慮し2人対応の支援や、場合により足浴等で支援している	入浴は毎日、。14時から16時の間可能で、ゆっくりと利用者一人ひとりに応じた入浴ができる支援をしている。体調に合わせてのシャワー浴、清拭等の対応の他、安心安全に入浴が楽しめるよう、職員2人対応での入浴の支援も行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	都度の体調面や各自の体力に配慮し、休憩の声掛けや誘導を行っている。併せて、日中は活動的に過ごすようにも努めている。入眠困難な方には、一緒にお茶を飲んだりして、安心して入眠できるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	第2金曜日にかかりつけ医で薬を受け取り、職員2人で個別の薬分けをしている。誤薬防止の為職員2人で、名前、日付を確認し利用者に声で伝え、飲み終えるまで確認している、受診記録簿に記載する他、お薬手帳で、一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を理解している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の生活歴に配慮し、生け花、料理、洗濯物干し、畳み物、季節に応じて野菜作り、花植え等、生活活動への参加対応に努めている。法人の催し物、誕生会、縫い物、お手玉、塗り絵、歌、回想法、かるた、新聞の読み聞かせ、ラジオ体操等、日々の生活の中で活躍できる場面を提供し、気分転換や張り合い、喜びのある生活が送れるよう支援している。	生け花、食事の準備と手伝い(食材を切る、盛り付ける、テーブル拭き、お盆拭き、盛り付け、コップを洗う)、洗濯物干し、洗濯物を取り込む、洗濯物をたたむ、菜園づくり(野菜の苗植え、水やり、草取り、作物の収穫)、お茶摘みとお茶づくり、新聞の読み聞かせ、歌、手遊び歌、早口言葉、縫物、ジグソーパズル、カラオケ、お手玉、ぬり絵、折り紙、回想法、かるた、誕生会、七夕飾りづくり、敬老会、つるクラフトづくり、クリスマス会、しめ縄づくり、どんど焼き、保育園児との交流、室内運動会、秋桜の壁絵づくりなど、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	R元年度は家族等調整を行い外出支援を行ったが4月以降はコロナ感染予防のため来ていない。	法人施設周辺の散策を自由に行い季節を感じている。家族の協力で美容院の利用の支援を行っている。園の畑で育てたスイカの収穫やプランターに花の植え付けをする、仮想外出をして鮎の塩焼きを園で食べている他、秋桜の壁絵づくりで季節を感じているなど、コロナ感染予防のため外出ができない中で工夫して、支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者の預り金あり、必要に応じて使えるように支援している。移動販売等		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での対応を中心として家族とのやりとりを支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の行動状況心理面に配慮しながら、模様替えを柔軟に行い心地よいと感じられる空間作りに努めている。	リビングは自然光が差し込み明るく広い。大きな窓から見える外庭や近くの山の紅葉から季節を感じることができる。庭にはウッドデッキが置いてあり休憩場所となっており、利用者と職員が一緒にくつろげる場所になっている。天井から秋のブドウ、紅葉、栗の作品が下がり、壁には切り絵、貼り絵でつくったコスモスや柿、リンゴを飾り、季節感を取り入れて、居場所づくりをしている。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者の生活行動の把握を行い日々の暮らしを安心と満足感を感じられるよう居場所の工夫に努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んでもらったり等居室で本人が心地よく過ごせる様支援に努めている。	ベッド、筆筒、化粧道具、家族写真、衣装箱、文房具、日用品等の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、自分の生けた花やぬり絵等の作品、位牌を置いて、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や状況に応じて、住環境(椅子の種類、テーブル ベッドの高さ等)を見直し、安全かつ自立した生活が送れるよう整備、工夫している。生活活動の際に解りづらい場所には張り紙をする等の工夫をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム阿東園

作成日： 令和 3 年 2 月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組み、事故発生時への備え 年3回の救急自主訓練の実施をしているが、全 職員の実践力は不十分。	全職員が実践力を身につける	1. 消防署の協力を得て年1回救急訓練を行う 2・年3回救急自主訓練の実施 3. 必要に応じて振り返りを行い現場に即した 訓練の実施	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。